



人生の最初から最期まで私に寄り添ってくれる感覚

おはようございます! こんにちは! あるいはこんばんは。英語科の西郷です。

私は先日あるお葬式に参列しました。その葬儀社の方がこんなことを教えてくれました。

「ほどなくお別れのときがやってきます。こちらがお顔を見られる最後の時間です。」

「五感の中で最後まで残るのは聴覚だそうです。」

「返事はもうないですが、声は届いているかもしれません。最後に伝えたいことを伝えてあげてくださいね。」

この言葉を聞いた時、私はその方に「ありがとうございます。」と伝えました。生きているうちに伝えられたらもうよかったです。しかし、伝えられてよかったです。いまおもって。当たり前だけれど言葉は目には見えません。それでも確かに誰かの耳に届き、心に残ります。実際、私は天国へと旅立ったその方に感謝を伝えながらも、自分自身にも、そして周りにいたご家族の方の心にもその言葉と気持ちは届いたと感じました。

葬儀社の方が言うように、人生の最後まで残る感覚は「聴覚」だといわれていますが、実は五感の中で、最初に育ちはじめるのも「聴覚」だといわれています。生まれてから、今日、そしてこれからの日々、たくさんの人の言葉を耳にします。その中で、安心できる人の言葉や、聞きやすい言い方のものを受け取りやすいのは自然なことかもしれません。だから、ついつい自分の都合の良いことだけ聞いてしまうこともあると思います。けれど、「誰が言ったか」で受け取り方を決めてしまうと、自分にとって必要な言葉まで、無意識に遠ざけてしまうことがあります。言葉を受け取る時、相手を選ぶことができる場面もあります。でも、いつも選べるとは限りません。そのとき大切になるのは、どんな相手の言葉の中にも、自分にとって意味がある部分を見つけようとする姿勢です。聴くというのは、相手のためというより、自分のための力だと思っています。受け取らなかった言葉は、相手ではなく、自分の成長の機会を通り過ぎていきます。

「聴覚」は、人生のはじまりから終わりまで続く感覚だからこそ、届ける言葉も、受け取る言葉も、何を伝え伝えないのか、何を選び選ばないのか…。その積み重ねが、静かに自分の力になっていくと信じています。

最後まで読んでくれてありがとう🌸